

様式 3

令和 4 年度 香南市幼稚園における学校評価報告書

香南市立野市東幼稚園

経営理念	【教育目標】 えがお かがやく ひがしの子 【経営目標】 『遊びを通して健康なこころとからだを育む幼稚園』をめざす 〈子ども像〉 ○明るく元気な子ども ○自分のことは自分でしようとする子ども ○思いやりのある子ども ○人やものに自分からかわかろうとする子ども ○自分の思いを表現しようとする子ども 〈幼稚園像〉 ○子どもの笑顔が輝く幼稚園 ○基本的な生活習慣を身につけ健康な子どもが育つ幼稚園 ○友達同士つながり自主性や社会性を身につける幼稚園 ○豊かな心情や知的好奇心を育てる幼稚園 ○保護者や地域から信頼される幼稚園 〈教師像〉 ○幼児との信頼関係を大切にする教師 ○創意工夫して保育する教師 ○意図的・計画的に環境を考える教師 ○互いに協力してチャレンジする教師 ○保育の研究・研修に努める教師
------	--

中期経営目標		短期経営目標（評価項目）	自己評価		学校関係者評価		改善策等
			達成状況	評価	考察	評価	
保育・教育活動の充実	○ 幼稚園教育要領に沿った教育活動と、幼児の発達に即した指導を展開し、生きる力の基礎となる心情・意欲及び態度を育てる。	① 幼児が様々な経験を積み重ねられる保育を展開する。	発達に応じた経験が積み重ねられるように指導案を作成し計画的に取り組んだ。週日案の作成では、担任間の連携ができるように話し合いの時間を確保し、それぞれの発達に応じた園庭の環境のすり合わせや季節に応じた物の数や場の設定するなど、子どもたちが自ら選んで遊べる環境づくりに努めた。成果として子どもが繰り返し遊ぶようになったが、遊びが発展していくための環境構成には課題が残る。	B	指導案を作成し、PDCAサイクルで計画的に取り組んでいた。子ども達の発想により環境づくりを更に進めてもらいたい。個々の遊びが偏らないように様々な遊びが経験できる場の設定や工夫など、教師側の発想と子どもの興味関心を高める活動仕掛けてもらいたい。	B	・担任間の連携はできているので更に環境構成についても研究主任を中心に計画的に教材研究の機会を取り入れ、全職員のスキルアップにつなげる。
		② 幼児が意欲的に体を動かして遊ぶための環境づくりをする。	・年間を通して体力向上を意識した保育を展開し週1回のリズム運動は継続して行うことができた。 ・幼児期の運動発達について職員で学び合い、外部講師の講習を受講した。そこでの学びを職員で共有したり振り返る時間を設けたり伝えたりしたことで職員が同じ視点をもち指導に当たることができた。90%以上の子どもが体を使った遊びを意欲的に楽しむようになった。体を使うことが少ない環境下にある子どもや、身のこなしに偏りのある子ども一人一人への個別支援に課題が残る。	B	外部講師を招いての研修など計画的継続的に取り組むことができていいる。ほとんどの子どもが体を使った遊びを楽しむことができていいる。個別の課題のある子どもに対しての支援など更に深めてもらいたい。	B	・継続してリズム運動を取り入れ、子ども達が体を動かして遊ぶ楽しさを感じられるように計画的に研鑽していく。また、少人数保育の良さを生かし、全職員が子ども一人一人に適した援助を行い個々の基礎体力を向上を支援する。
		③ 自分の思いを言葉で伝えようとする幼児の育成をする。	子どもが自分の思いを安心して伝えられる信頼関係を基に一人一人の内面理解に努め、子どもが伝えたいと思われる内容を予想したり、時には言葉を足していったことで、自分なりに伝えようとする子どもが70%以上になってきた。自分の気持ちを伝えられるようになってきたことで、友達の気持ちを聞こうとする姿も見られてきている。引き続き取り組んでいく必要性を感じている。	B	保護者アンケートを見ても肯定的な回答となっており、保育者との信頼関係が築けている。保育者側から見ても子どもが思いを伝えられるようになってきており、友達の話や聞こうという姿にもつながっている。伝えあいのできる集団、子どもと保育者の関係が育ってきている。	A	・今後も保育者との信頼関係を基に、安心して自分の思いを伝えられる機会を大切にする。また、絵本の読み聞かせや人との関わりを通して、豊かな語彙力につなげるよう意識した保育を実施する。
職員の育成・資質向上や運営	○ 園務分掌等が適切に機能し、子どもたちのために教職員がお互いに協働する風通しのよい幼稚園を構築する。	① 保育者や幼児の安全対応力を高める。	子ども自身が身を守るためのきまりを知らせ、なぜ守らないといけないのかその都度説明をしてきたことで、子どもが周りの様子や状況を見て危険なことを保育者に知らせようになってきた。しかし、スリル感を求めて危険な動きをする時もあるので、個別指導はもちろんのこと、集団で安全を考える時間を定期的にもつ必要がある。	B	保護者アンケートからも肯定的回答が100%と高く、年間を通して計画的に実効性のある防災訓練ができていいる。危険予知のトレーニングなどの実施を、子どもと保護者間でも安全防災について考える時間を作ってみてはどうか。	B	年間避難訓練計画を見直す際には、自園の課題等から必要な訓練を計画する。実施案検討では、職員の意識改革の基、たくさん意見を出し合い、職員の危機管理意識向上に向けて取り組む。
		② 一人一人の発達を理解し、心に寄り添った教育を行う。	特別支援教育では、毎月のケース会において、子どもの姿から背景要因を考察し必要で有効な支援を探り支援計画を共有して行っった。職員は、それぞれの立場から関わりをもったことで日頃の様子や特性的な傾向が分かり、それを基に翌月のケース会では、一人一人の子どもに対して、思ったことや考えたこと、関わりをもったことで分かったこと等発言することができた。関わる機会が少ない子どもがいたことは反省である。	B	今年のポイントである全職員で支援に関わるために、個別の支援計画を作成してケース会ごとに支援のあり方など共通理解し共通行動がとれるようにしていた。一人一人の子どもの変容などを共有し、更に充実を図ってほしい。	B	全職員が幼児の姿や今後育てていきたいこと、そのための支援方法を共有し、どの立ち位置からも同じ支援ができるよう意識した保育を行い、個々の育ちを支えていく。そのために、ケース会では積極的に発言していく。
地域に開かれた園づくり	○ 保護者や地域に開かれた幼稚園づくりに努め、信頼される幼稚園を確立する。	① 子どもの育ちや経験が分かる便りを工夫し発行する。	写真などを用いて子どもの遊びや生活の様子が分かる便りを作成し、それに加えて保育の意図を加えて伝えてはいるが、どこまで読み込んでくれているのか担任としての手ごたえは弱く、便りの内容をきっかけにした保育の話には至っていない。また、保護者アンケートでは、「子どもの遊びの様子や成長の姿を分かりやすく伝えられているか」という設問にそう思うと答えた保護者は75%と他の設問より低かった。担任の伝えたい学年としての育ちに関心をもってもらえるような発信に課題が残る。	B	保護者アンケートからも肯定的回答が高い。クラス便り、園だよりなど、子どもの様子や成長がよく分かる情報が提供されている。	A	子どもの生活の様子をより詳しく伝えるために、行事だけでなく、日々の生活や遊びの様子のドキュメンテーションを作成し、より子どもの姿や成長が伝わるように工夫する。
		② 行事や園外保育を通して、地域に親しみをもつ。	コロナ禍において感染状況をみながら、夏祭りや獅子舞、焼き芋昨年できなかった地域の方々に会える機会を何度かもつことができた。地域の方の名前を憶えて親しみを感じている子どももいる。散歩等で地域へでかける機会は予定より少なかったことは反省である。	A	地域の方々との交流の機会が戻ってきてことで、地域や保幼との交流機会も増え、地域に親しみをもつことができていいる。	A	地域の方々に関わる機会を広げ、地域の人材を活用した保育を計画する。また、保幼小中連携を充実させるために、職員間の連携を意識し計画実践する。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要